

令和5年度

## 県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要

和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課

# 一 般 選 抜

## 〔 国 語 〕

### 1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 大問 一 では、漢字について、基本的な書く力、読む力が身についているかをみるとともに、言葉の使い方、書写、漢文の基礎的・基本的なことがらについて正しく理解できているかをみるようにした。また、話し合いの話題や展開を捉えることや、『論語』の一節を読み、伝えようとしている内容を理解することができているかをみるようにした。
- (3) 大問 二 では、オノマトペについて書かれた文章を読み、内容や筆者の考えが理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (4) 大問 三 では、合唱コンクールに向けて練習する中学生の様子を描いた小説を読み、内容や登場人物の心情、表現の効果が的確に理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (5) 大問 四 では、資料をもとに自分の考えをまとめ、読み取った情報を用いて表現する力をみるようにした。

### 2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、53.9点（満点100点）であった。
- (2) 大問 一 では、基本的な常用漢字の読み書きや、場面に応じた言葉の使い方については概ねできているが、漢文の返り点や故事成語の知識に課題が見られた。
- (3) 大問 二 では、文章の内容の基本的な読み取りは概ねできているが、接続詞の役割や文法事項の理解に課題が見られた。
- (4) 大問 三 では、文章全体を通した内容の理解は概ねできているが、表現技法の知識に課題が見られた。
- (5) 大問 四 では、自分の考えを伝えようとする態度は見られたが、自分の考えと資料を関連付けて述べる力に不十分さが見られた。
- (6) 国語科の指導にあたっては、どのような言語活動を通して、どのような資質・能力の育成を目指すかを明確にし、思考・判断し表現することで知識や技能を身に付けさせる授業を構想することが大切である。

### 3 各問題別結果

調査人数	576人
------	------

問 題			得点者の割合 (%)															
			15点	14点	13点	12点	11点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
一	〔問 1〕	①														79.7	20.3	
		②														50.5	49.5	
		③														68.2	31.8	
		④														62.8	37.2	
		⑤														84.9	15.1	
		⑥														86.8	13.2	
		⑦														65.8	34.2	
		⑧														74.1	25.9	
	〔問 2〕	(1)	話し合い													96.2	3.8	
		(2)														89.9	10.1	
	〔問 3〕	(1)	言葉の使い方・書写													55.2	44.8	
		(2)														83.5	16.5	
		(3)															68.1	31.9
	〔問 4〕	(1)	漢文													46.9	53.1	
(2)															37.8	62.2		
二	〔問 1〕	理解											63.4			36.6		
	〔問 2〕	理解												48.3		51.7		
	〔問 3〕	文法												24.3		75.7		
	〔問 4〕	理解と表現									7.1	5.4	13.7	14.2	9.5	2.1	47.9	
	〔問 5〕	理解と表現										7.5	6.1	12.5	18.9	8.7	46.4	
	〔問 6〕	理解									66.8			26.9			6.3	
三	〔問 1〕	語彙と理解												72.9		27.1		
	〔問 2〕	理解と表現										8.9	12.3	19.4	8.7	4.5	46.2	
	〔問 3〕	表現技法と理解											14.1				85.9	
	〔問 4〕	理解												68.9		31.1		
	〔問 5〕	理解と表現								6.9	2.6	5.0	8.0	9.9	11.1	9.0	3.0	44.4
	〔問 6〕	理解											77.3				22.7	
四		表現	5.2	8.7	8.0	6.8	5.4	6.4	7.5	6.8	6.3	4.3	4.3	3.3	2.6	1.6	3.6	19.3

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

# 一 般 選 抜

## 〔 社 会 〕

### 1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 地理的分野では、世界地理について、赤道が通る国を題材に、気候や時差、人口などの基本的な事項を理解しているかをみるようにした。また、日本地理について、関東地方と九州地方を題材に、自然環境や産業などの基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (3) 歴史的分野では、いくつかの時代の特徴あるできごとや日本の歴史に大きな影響を与えたできごとについてまとめたものを題材に、政治や外交、経済、文化について基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (4) 公民的分野では、成年年齢の引き下げによる影響や、人口減少・少子高齢化によって生じる課題を題材に、政治、経済などについて基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (5) 三分野とも、表や図等を題材とし、資料を読み取る力をみるようにした。また、社会的事象の意味や意義を理解し、その内容を適切に表現する力をみるようにした。

### 2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、49.3点（満点100点）であり、各分野の正答率は、地理的分野60.0%、歴史的分野40.7%、公民的分野54.7%であった。
- (2) 地理的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。記述問題の正答率は高かったが、地形の条件から理由を考える問題や図表を読み取る問題での正答率が低かった。
- (3) 歴史的分野は、昨年と比較して正答率が下降した。適切な文章を選ぶ問題については正答率が高かったが、文章で表現する問題や記述で解答する問題の正答率が低かった。
- (4) 公民的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。政治分野は正答率がやや低く、経済分野は正答率が高かった。資料を読み取る問題や文章で表現する問題の正答率は低かった。
- (5) 社会科の指導にあたっては、社会的・歴史的事象について理解させるとともに、現代社会の課題や取組について興味・関心をもたせることや、歴史については大まかな時代の流れと事象の関係性を理解させることが大切である。

### 3 各問題別結果

調査人数	576人
------	------

問 題			得点者の割合 (%)				
			3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕			78.1		21.9	
	〔問2〕	(1)	26.9	2.6	0.9	69.6	
		(2)	70.3			29.7	
	〔問3〕		62.2			37.8	
	〔問4〕		58.9			41.1	
	〔問5〕		71.2			28.8	
世界の地理							
2	〔問1〕		53.1			46.9	
	〔問2〕		23.8			76.2	
	〔問3〕			67.4		32.6	
	〔問4〕		48.1			51.9	
	〔問5〕			71.5		28.5	
	〔問6〕		58.7	16.5	9.9	14.9	
日本の地理							
3	〔問1〕		29.7			70.3	
	〔問2〕	(1)		51.6		48.4	
		(2)			62.2		37.8
	〔問3〕			52.8		47.2	
	〔問4〕		35.6			64.4	
	〔問5〕		12.0	1.6	8.0	78.5	
	〔問6〕			40.6		59.4	
	〔問7〕		9.2	20.5	12.0	58.3	
〔問8〕			46.7		53.3		
世界と日本の歴史							
4	〔問1〕			23.8		76.2	
	〔問2〕			51.9		48.1	
	〔問3〕			35.4		64.6	
	〔問4〕		32.6			67.4	
	〔問5〕		30.9	6.8	5.9	56.4	
世界と日本の歴史 (近現代)							
5	〔問1〕		62.2			37.8	
	〔問2〕			65.5		34.5	
	〔問3〕		40.5	15.8	6.9	36.8	
	〔問4〕		39.4			60.6	
	〔問5〕			27.3		72.7	
	〔問6〕		56.9			43.1	
日本の政治と経済							
6	〔問1〕		65.1			34.9	
	〔問2〕		61.8			38.2	
	〔問3〕		45.1			54.9	
	〔問4〕		8.7	24.7	15.3	51.4	
	〔問5〕	(1)			54.7		45.3
		(2)		66.5			33.5
日本の政治と経済							

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

# 一 般 選 抜

## 〔 数 学 〕

### 1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各領域、各学年の指導内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 「数と式」の領域では、正の数と負の数の四則計算、文字式や無理数の計算、因数分解等についての基礎的な理解力をみるとともに、与えられた条件から連立方程式を立式し、題意に即して正しく処理する能力をみるようにした。
- (3) 「図形」の領域では、図形の計量などについての基礎的な理解力をみるとともに、図形の性質の証明により、思考や推論の過程を論理的に表現する力をみるようにした。また、円周角の定理や三平方の定理、相似な図形の性質についての学習内容を活用する力をみるようにした。
- (4) 「関数」の領域では、一次関数や二次関数等についての基礎的な理解力をみるとともに、関数と図形の関係を総合的にとらえ、正しく処理する能力をみるようにした。
- (5) 「データの活用」の領域では、確率の基礎的な力をみるようにした。また、与えられた資料からデータを読み取る力をみるようにした。
- (6) 各領域とも基礎的・基本的な内容の習得ができていくかについてみるとともに、問題解決への関心・意欲、数学的な見方や考え方及び事象を数理的に考察する力をみるようにした。

### 2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は 46.4 点（満点 100 点）であった。
- (2) 「数と式」の領域では、昨年度と同様に基本的な計算は概ねできていた。
- (3) 「図形」の領域では、図形の性質を証明する問題や相似な図形の性質を活用する問題の正答率が低かった。
- (4) 「関数」の領域では、図形の領域と融合した問題の正答率が低かった。
- (5) 「データの活用」の領域では、資料を読み取り、説明する問題や定義を正しく理解しているか問う問題の正答率が低かった。
- (6) 数学科の指導にあたっては、基礎・基本の知識・技能を習得させるとともに、種々の事象を数学的に表現・処理し問題を解決することが求められる。

### 3 各問題別結果

調査人数	576人
------	------

問 題				得点者の割合 (%)							
				7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)	正の数・負の数					98.8			1.2
		(2)	正の数・負の数					79.2			20.8
		(3)	文字の式					87.3			12.7
		(4)	平方根					76.7			23.3
		(5)	式の展開					83.3			16.7
	〔問2〕		因数分解					76.6			23.4
	〔問3〕		絶対値				40.1				59.9
	〔問4〕	(ア)	データの活用						76.2		23.8
		(イ)	データの活用						21.7		78.3
	〔問5〕		関数				62.2				37.8
〔問6〕		平面図形				33.3				66.7	
2	〔問1〕	(1)	空間図形					91.7			8.3
		(2)	空間図形				12.8				87.2
	〔問2〕	(1)	規則性					95.3			4.7
		(2)	規則性				39.8				60.2
	〔問3〕		確率				28.0				72.0
	〔問4〕		連立方程式		54.5	10.9	3.3	2.3	3.1	1.0	24.8
	〔問5〕		データの活用			12.3	3.0	4.3	9.2	5.0	66.1
3	〔問1〕		関数					33.9			66.1
	〔問2〕		関数				46.9				53.1
	〔問3〕		関数・平面図形			12.2					87.8
	〔問4〕		関数・平面図形		10.9	0.0	0.0	10.1	0.0	0.3	78.6
4	〔問1〕		平面図形					66.8			33.2
	〔問2〕		平面図形				44.4				55.6
	〔問3〕		平面図形	7.5	2.1	0.5	0.3	0.7	4.0	7.8	77.1
	〔問4〕		平面図形			12.0					88.0

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

# 一 般 選 抜

## 〔 理 科 〕

### 1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 自然の事物・現象を探究するために必要とされる基礎的・基本的事項についての知識・理解及び科学的な思考力、問題解決能力が身につけているかをみるようにした。
- (3) 観察・実験を重視し、結果を分析する能力、判断力及び表現力をみるようにした。
- (4) 第1分野では、水溶液や電流について、基本的事項が理解できているかをみるようにした。また、水溶液を混合し性質を調べる実験や、電熱線の発熱と電力の関係を調べる実験について、科学的な思考力と分析力をみるようにした。
- (5) 第2分野では、植物や天体について、基本的事項が理解できているかをみるようにした。また、遺伝の規則性や太陽系の惑星について、科学的な見方や考え方、表現力が身につけているかをみるようにした。

### 2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、53.1点（満点100点）であった。
- (2) 全般的には、基礎的・基本的な内容を問う問題の正答率は概ね高かったが、短文で説明する問題の正答率がやや低かった。
- (3) 第1分野では、水溶液を混合し性質を調べる実験や、電流に関する実験について、学習した内容を活用し計算する問題の正答率が低かった。第2分野では、天体に関する知識を問う問題や、植物の花のつくりに関する問題の正答率がやや高かったが、遺伝の法則について説明する問題は正答率が低かった。
- (4) 理科の指導にあたっては、基本的な知識・技能の習得を一層深めるとともに、その内容をうまく活用できる力を養うことが求められる。また、実験・観察を通して、科学的な視点で自然現象をとらえ、対話的に思考を深めていくような指導により、実験結果を分析し、客観的に考察して自らの考えを表現する力を育成することが大切である。自然の事物・現象について、「理科の見方・考え方」を働かせ、探究の過程を通して学ぶことにより、資質・能力を獲得するとともに、「見方・考え方」も豊かで確かなものとなると考えられる。

### 3 各問題別結果

調査人数 576人

問 題				得点者の割合 (%)			
				3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)	物質の成り立ち 化学変化と物質の質量	80.9			19.1
		(2)			84.5		15.5
	〔問2〕	(1)	生物と細胞 力の働き		57.1		42.9
		(2)		41.8		58.2	
		(3)		45.8		54.2	
		(4)			96.7		3.3
	〔問3〕	(1)	堆積岩と化石	42.5			57.5
		(2)			98.6		1.4
2	〔問1〕	(1)	花のつくりと働き		70.1		29.9
		(2)		72.4		27.6	
		(3)			66.8		33.2
		(4)			70.3		29.7
	〔問2〕	(1)	遺伝の規則性と遺伝子	89.2			10.8
		(2)			64.6		35.4
		(3)		70.1		29.9	
		(4)		2.4	3.8	2.8	91.0
3	〔問1〕	太陽系の惑星	75.9			24.1	
	〔問2〕		43.6			56.4	
	〔問3〕			66.5		33.5	
	〔問4〕		49.1			50.9	
	〔問5〕		42.2			57.8	
	〔問6〕		67.2			32.8	
	〔問7〕		38.7			61.3	
4	〔問1〕	水溶液とイオン		87.2		12.8	
	〔問2〕		(1)	10.2		89.8	
			(2)	45.7		54.3	
	〔問3〕			63.2		36.8	
	〔問4〕		37.5			62.5	
	〔問5〕		X		37.7		62.3
			Y		47.4		52.6
〔問6〕	5.4			94.6			
5	〔問1〕	(1)	電流 電力		70.8		29.2
		(2)		11.3		88.7	
		(3)		56.9	5.2	2.4	35.4
		(4)		33.2			66.8
	〔問2〕	(1)	42.0			58.0	
		(2)	31.4			68.6	
		(3)	40.8			59.2	

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

# 一 般 選 抜

## 〔 英 語 〕

### 1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が身についているかをみるようにした。
- (3) 題材については、生徒にとって身近なものを使用し、取り組みやすい内容とした。惑星について調べたこと、海外の大学が提供するオンライン学習講座、海外の高校生との交流等の内容を取り上げた。
- (4) 「音声」の領域では、身近な場面についての基礎的な対話文を聞いて理解する力をみるとともに、まとまりのある文章を聞いて、その要点を聞きとる力をみるようにした。
- (5) 「理解」の領域では、英文の内容について、その概要や要点を読み取る力、話の流れを筋道立てて理解していく力が身についているかをみるようにした。
- (6) 「表現」の領域では、与えられた身近なテーマについて、自分のことを30語以上の英語で自由に表現させることにより、伝えたい内容を適切に表現する力が身についているかをみるようにした。

### 2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、47.8点（満点100点）であった。
- (2) 「音声」の領域では、7割以上の正答率が得られた問題が多く、概ね良好であった。情報を適切に聞き取る問題では、正答率がやや低かった。
- (3) 「理解」の領域では、英文の概要や要点を読み取る力は概ね良好であるが、適切に文脈を読み取った上で短い英文で表現する力や、指示語が指す内容を正しく把握する力、英語の質問に英語で答える力に課題が見られた。また、語句を正しい語順に並べ替える「語整序」は正答率が低く、文法的な知識にやや不十分さが見られた。
- (4) 「表現」の領域では、英語で自分の経験を相手に伝えようとする態度はみられたが、指定された条件を正しく読み取り、与えられたテーマについて、英語で正しく表現する力は、受検者の間に大きな差が見られた。
- (5) 英語科の指導にあたっては、言語や文化に対する理解を深めるとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせることが求められ、日常の授業においても4技能をバランスよく育成する必要がある。

### 3 各問題別結果

調査人数	576人
------	------

問 題				得点者の割合 (%)											
				10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕	No. 1	リスニング									75.2		24.8	
		No. 2										60.6		39.4	
		No. 3										96.2		3.8	
	〔問2〕	No. 1	リスニング									49.7		50.3	
		No. 2										68.4		31.6	
	〔問3〕	No. 1	リスニング									75.3		24.7	
		No. 2										67.9		32.1	
		No. 3										67.0		33.0	
		No. 4										84.4		15.6	
		No. 5										82.8		17.2	
2	〔問1〕	(1)	内容理解									65.8		34.2	
		(2)	内容理解									58.3		41.7	
	〔問2〕		内容理解							25.7	0.5	27.8	29.7	16.3	
	〔問3〕	(1)	対話文完成									41.8		58.2	
		(2)	条件作文									14.1	6.7	4.6	74.6
3	〔問1〕		内容理解									35.1		64.9	
	〔問2〕		内容理解									67.2		32.8	
	〔問3〕	(1)	英問英答									36.5	19.8	6.6	37.2
		(2)	英問英答									15.3	3.1	1.4	80.2
	〔問4〕		内容理解								37.6	19.4	5.7	1.8	35.5
	〔問5〕		内容理解									45.3			54.7
4			自由作文	4.3	5.6	5.4	5.6	7.8	9.9	5.7	7.5	5.2	4.5	38.5	
5	〔問1〕	A	内容理解									54.2		45.8	
		B	内容理解									32.0		68.0	
	〔問2〕	㉑	語整序									38.0		62.0	
		㉒	語整序									18.6		81.4	
	〔問3〕		内容理解								5.2	8.0	8.0	7.6	71.2
	〔問4〕	(1)	英問英答									40.8	14.4	4.9	39.9
		(2)	英問英答									16.1	8.0	2.1	73.8
	〔問5〕		内容理解								40.5				59.5
	〔問6〕		内容理解								9.7	3.6	12.5	5.6	68.6

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。